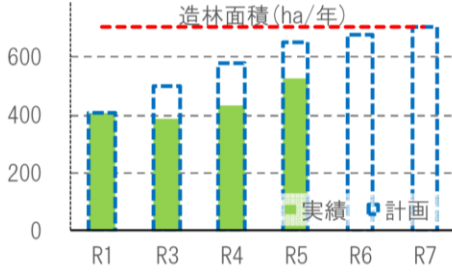
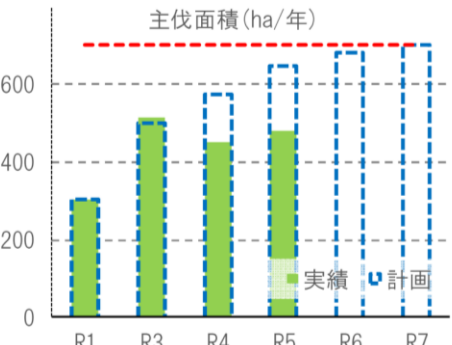


循環型林業推進のために～栃木県の皆伐・再造林の実績～

栃木県HP とちぎ森林創生ビジョンの実施結果について(令和5年度実績)より

指標	現状値	実績値/年度目標値/年度進捗率					目標値	グラフ ※単年度集計の指標は棒グラフ、累計等は折れ線グラフで表記
	R1 (2019)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R7 (2025)	
造林面積 (ha/年)	408	387	431	528	1,346		700	
		500	575	650	680	700		
		77% △	75% △	81% ○				
	<ul style="list-style-type: none"> ・年々、増加傾向にあるものの、目標には届かなかった。 ・エリートツリーの導入や、ドローンによる苗木運搬などによる作業の効率化で、主伐（皆伐）地での造林を確実に進めていく。 							
主伐面積 (ha/年)	302	513	449	480	1,442		700	
		500	575	650	680	700		
		103% ◎	78% △	74% △				
	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度より改善したものの、目標には届かなかった。 ・皆伐へのモデル的なシフト（H26～）から、主伐面積は年々増加し、約500haで推移している。 ・ウッドショック時の外材供給体制への不安が残る今が、国産材の利用率を上げていく最大のチャンスと捉え、主伐（皆伐）による森林資源の循環利用を進めていく。 							

ひとくちメモ「栃木県の優位性～産官学連携による皆伐・再造林推進～」で取り上げたように、栃木県には産官学連携で皆伐・再造林に時間をかけて取り組んできた経緯があります。

栃木県がHPにより公表している「とちぎ森林創生ビジョンの実施結果」によると、R3～5の造林面積は1,346ha、主伐面積は1,442haとなっています。



前ページのデータをもとに計算すると、皆伐・再造林率（皆伐後に植林を行った比率）は93.3%（=1,346÷1,442）となります。

ひとくちメモ「栃木県の優位性～産官学連携による皆伐・再造林推進～」で取りあげた再造林指標は78%で、単純比較は出来ませんが、関係者間の連携をもとに皆伐・再造林に時間をかけて取り組んできた経緯に加え、その後も一層の努力が継続されている様子が伺えるように思われます。

林野庁 2022年11月 再造林対策の推進に向けた現場での取組事例より

再造林対策の推進に向けた取組事例について

はじめに

主伐面積に対する造林面積の割合は近年約3～4割で推移しており、主伐後の再造林の促進は喫緊の課題です。

林野庁としては、一貫作業システムなど低コスト造林技術の実証を支援してきたところですが、各地独自の取組のヨコ展開も重要であることから、**(1)低コスト造林技術・(2)再造林推進に向けた取組** を紹介します。

一方上記のように、全国では再造林は3～4割程度で推移しており、皆伐後の再造林実施が、喫緊の課題とされているようです。

「伐って収穫した森林資源は適切に利用し、伐採跡地は適切に植栽し、新たな森林を育てる」という森林資源循環利用の流れが、全国に先駆けて確立された栃木県は、森林資源の循環利用・森林資源のフル活用を推し進める最適な場所であることがさらに良く分かる状況にあると考えられます。

